

平成 27 年度第 7 回青森市健康福祉審議会児童福祉専門分科会会議概要

- 1 開催日時 平成 27 年 1 月 30 日（土）13 時 00 分～14 時 45 分
- 2 開催場所 青森市総合福祉センター2 階 大集会室
- 3 出席委員 佐藤秀樹委員、坂本浩司委員、清水和秀委員、新井山毅委員、
一戸倫子委員、成田昌士委員、橋爪直美委員 《計 7 名》
- 4 欠席委員 宮崎秀一会長、大村育子委員、鳴海明敏委員、稲見公介委員、
佐藤央子委員 《計 5 名》
- 5 事務局 健康福祉部長 赤垣敏子、健康福祉部理事 能代谷潤治、
子どもしあわせ課長 西澤哲司、子育て支援課長 鹿内利行、
浪岡事務所健康福祉課長 加福拓志、
子どもしあわせ課副参事 土岐政弘、
子育て支援課副参事 松本和久、子どもしあわせ課主幹 山崎真治、
子どもしあわせ主査 小山内孝育、
子どもしあわせ課主事 工藤拓也 《計 10 名》
- 6 その他出席者 青森市子ども会議委員 9 名、子どもサポーター 1 名
- 7 会議次第
(青森市子ども会議との合同会議)
 - 1 開会
 - 2 健康福祉部長あいさつ
 - 3 自己紹介
 - 4 案件
「(仮称) 青森市子ども総合計画」素案について
 - 5 閉会
- 8 議事概要
 - ・自己紹介
青森市健康福祉審議会児童福祉専門分科会委員、青森市子ども会議委員の順に自己紹介をした。
 - ・案件 「(仮称) 青森市子ども総合計画」素案について

事務局から資料 1、2 に沿って計画素案の内容を説明し、その後、各グループに別れ、4 つのテーマと計画の名称について話し合いをした。

意見発表

「子どもにとって大切な権利が保障される環境づくりについて」

○子ども会議委員（A グループ）

子どもの権利条例を多くの子どもたちに知ってもらうために、学級活動や総合の授業の中で、子どもたちに教えていけばいいと思う。

文化祭で子どもの権利に関する展示をして、生徒や先生に発表すればいいと思う。

○子ども会議委員（B グループ）

子どもの権利条例を多くの子どもたちに知ってもらうために、ポスターの絵でひきつけたり、先生の勉強会を行えばいいと思う。また、学校で、子どもの権利に関するチラシを紙飛行機にする生徒がいるので、逆にそれを利用して、紙飛行機の作り方を載せて、作った紙飛行機にメッセージを書いてお知らせすればいいと思う。

毎年やっているイベントで、子どもたちとのふれあいの場を設ければいいと思う。

子どもたちの意見をいろいろなところで活かしていくためには、身近にいる大人である先生と子どもが意見を交わす場を設ければいいと思う。

「子どもの健やかで心豊かな育ちへの支援について①」

○子ども会議委員（B グループ）

ゲームセンターがあればいいと思う。また、子どもが気軽に遊べる公園などで、小学校 6 年生は遊べるが 4 年生は遊べないというような上下関係をなくしたほうがいいと思う。また、関連して、公園などでのマナーを教えるために、子どもの権利条例を利用すればいいのではないか。

学区が狭いので、もう少し規制を緩和してほしい。

○子ども会議委員（A グループ）

運動したりスポーツをするときに、市民センターや学校は、大人に使用されていたり、部活で使用したりしているので、子ども向けの体育館など、運動できる場所があればいいと思う。また、学校の校庭などが空いているときは、地域の子どもたちのために貸し出せばいいと思う。

また、遊び場をもっと楽しくするために、遊具の種類を増やせばいいのではないか。

○子ども会議委員（B グループ）

具体的にどんな種類の遊具がいいと思うか。例えば、ブランコは冬の期間遊べないので、公園でブランコに乗れず、悲しむ子どももいると思う。

○子ども会議委員（A グループ）

遊具のサイズを小さい子どもに合わせているので、大きくなった子どもが利用できない。小さい子どもと一緒に遊べる遊具など、遊具の種類がもっとあれば、多くの年代の子どもが遊べるのではないかと思う。

「子どもの健やかで心豊かな育ちへの支援について②」

○子ども会議委員（A グループ）

地域のごみ拾い活動や川の清掃、ねぶた囃子などで地域を盛り上げていけばいいと思う。

○子ども会議委員（B グループ）

地域でのあいさつ運動や雪かき、エコキャップ運動を地域単位で行えば、もっと良くなるのではないか。

「子どもが安心して安心して暮らせる環境の整備について」

○子ども会議委員（B グループ）

冬快適に過ごすために、学校周辺に雪がたまっているので、学校の委員会などで雪かきをすればいいと思う。

新しい学校は、廊下にも暖房がついているのに、古い学校は、大きいストーブをいちいち出さないと温まらない。新しい学校の子は、自由に遊べるのに、古い学校の子は、寒い思いをしながら我慢して遊ばなければいけないので、暖房の格差をなくしてほしい。

先生がセーターなどを着ているのに、なぜ生徒は着てはいけないのか。学校全体を快適に過ごせるようにしてほしい。

○子ども会議委員（A グループ）

冬道で滑ったり転んだりして時間がかかるので、外に出ないという人も出てくる。通学路が狭く、雪で滑ったりする危険性があるので、地域を含めて通学路の除雪などを整備してもらいたい。

○子ども会議委員（A グループ）

個人情報などの危険性があるので、学校でのサイバー犯罪の対策教室だけでは足りないと思う。

○子ども会議委員（B グループ）

学校単位で講演会などを行っているが、それでも問題は出てくるので、写真や個人情報などが、一度広まると取り返しのつかないことになるということを、スマートフ

オンやインターネットを使わせる立場である親が、子どもにしっかりとコミュニケーションをとって対策することが一番ではないか。

『(仮称) 青森市子ども総合計画』の名称について」

○子ども会議委員 (A グループ)

「計画」よりは「プラン」の方が分かりやすい。また、「大作戦」という名称の付け方もあるのではないか。

○子ども会議委員 (B グループ)

あえて名称を漢字だけにして難しくすれば、見逃してしまう人も目を向けるのではないか。